

パラレル・キャリア

1. P. F. ドラッカーの予言

右掲は、経営学やマネジメント分野で有名なP. F. ドラッカー先生が約20年前に出版した「明日を支配するもの」という著書です。この本の中で、今後、企業寿命の短命化を予言してパラレル・キャリアを説いたのです。ドラッカー先生はこのパラレル・キャリアについて

『**本業を持ちながら、第二の活動をする**こと』

とまとめており、第二の活動の定義は緩く、ボランティア活動など非営利団体への参加や別企業への就職、自営業の開始など幅広い活動としています。

確かに、IT時代になり時代の変革速度は格段に速まっており、大企業でも成功体験にアグラをかいているとアツと言う間に時代遅れになり、上場が危うくなっています。終身雇用という伝統的な雇用関係は崩れつつあり、先端企業では30才定年説が出る程にビジネス環境の変化が目まぐるしくなっているのです。特に、ビジネス・モデルという分野はITやAIの進化で今持っている技術(スキル)や経験(キャリア)が凄まじい速さで陳腐化する時代なのです。まさに、ドラッカー先生が予言した通りの事が企業でも個人でも起こっているのです。

このような時代になり、1つの仕事だけを本業とするのではなく、全ての仕事に対して本業と同じ気持ちで向き合う姿勢のことを「複業」と表現して、別の分野で技術(スキル)や経験(キャリア)を磨く事が急務になります。「複業」は単なる「副業」とは意味が違います。「副業」＝「サイド・ビジネス」とすると、例えば、賃貸マンションなどの不動産に投資して家賃収入を得るといった事が数多くされていますが、これでは、技術(スキル)や経験(キャリア)を磨いたかと言うと単なる金儲けの要素が大きくなるのです。「複業」はパラレル・キャリアというようにパラレル(parallel)は同時平行的に本業と違った分野でキャリア(経験)を磨く事で違った自分を発揮する事になります。



2. 「働き方改革」

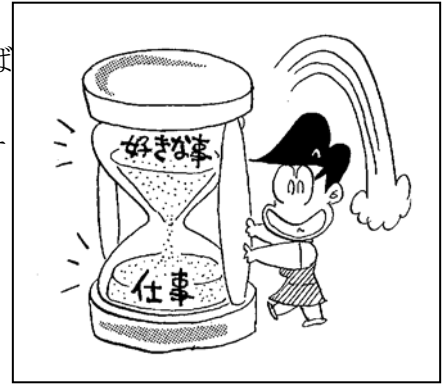
今国会で政府は「副業」を含めた「働き方改革」の法案を出しており、就業規則もドラスティックに変化して行く流れになろうとしています。ここで言う「副業」は単なる「金儲け」の為で行うものを含めてドラッカー先生の示した「ボランティア活動など非営利団体への参加や別企業への就職、自営業の開始など幅広い活動」と重なる部分があります。

この「働き方改革」が登場する背景は、単純にグローバル化やITやAIの進化で職業寿命が短くなるという事もある、人の異動を早くする事で企業の生産性を高めることにあると言えます。つまり、「就職」と言うが「就社」的な一生を同じ会社で同じ仕事で過ごす事ではなく、セカンド・キャリアを奨励して「別の分野」へ変身を含んだ挑戦を推奨しているのです。

つまり、就職したが実は総合職で何を担当するか保証されるものでなく、多くの方は「安定」を選んで与えられた仕事をしているという現実があります。この「与えられた」という言葉に意味があり、その仕事が適職という保証がない物なのです。従って、このミス・マッチによって過酷な現実直面して、過労死などの問題が起こっているのです。確かに、就職試験に合格して採用されたが、どんな仕事をするかの選択が難しいのです。電通の女性社員が過酷な過労から自殺した事件がありましたが、電通に務めている事が目的になってはミス・マッチを解消できないのです。この方の実情は分かりませんが「ゴール」の見えない仕事で苦しんだのだと思います。

3. Can、Will、Must

右掲は「好きな事＝仕事」というイラストですが、前述のように、多くの方は「好きな事＝仕事」という状態ではないのです。例えば、中小企業の2代目や3代目の方は運命的な状況から経営者になっており、その仕事が自分の望む物であるとは限らないのです。「好きな事」と言うには自分が楽しく感じる事、即ち、DNA的に反応する事という側面もあるのです。このようなミス・マッチのある状況では一日を充実したものとする事が出来ないで、自分が楽しく出来る事を見つけ出し「充実感」を持つ事が大切です。この「楽しく出来る事」をキャリアとして見出さないと本業以外の事に目が行き、何かのにめり込んで本業が疎かになり窮地に陥ることに発展しかねないのです。



この状況は事業承継者ばかりでなく、サラリーマンにも当てはまるのです。サラリーマンの場合、「好きな事＝仕事」と限らないので、まずは仕事を好きな事が大切です。企業の方も受け入れ時に「できる」を実感させるように基礎から教える事が大切であり、簡単な事から始めて「できる、できる、また、できた」という連鎖で喜びを感じるように育てる事になります。しかし、人の感情は時間と共に冷めるので、「できた」(Can)という状態から「やりたい」(Will)の状態ステップアップして、お客様から感謝される実感を大きくなる仕事に移行して、さらに、自発的に「せねばならない」(Must)つまり「責任者」の状況に引き上げる継続した刺激が必要です。

全員が Can→Will→Must と本業でステップアップすれば、政府がいう「働き方改革」のうち生活の充実度が向上する訳ですが、それでも、時代の変化が早いので、P. F. ドラッカーの予言のように本業とは別の流れで自己実現する事も必要になるのです。その一つとして「副業」を挙げており、そのキャリアを充実させて「本業」化させる狙いもあるのです。日本企業の「就社」的風土を改めて新陳代謝を早めて企業の生産性を高める効果も見込まれるのです。労働市場の流動化が高まるが、その結果、動いた人が幸せになるとは限らないのも事実なのです。

4. 10年先を見込んでキャリアを磨く

できる事から始めるのが私流パラレル・キャリアの進め方ですが、その新しいキャリアが10年先にどんな影響を与えているかが大きな課題であります。私の場合、すでに69才になっていますので10年先は79才と年齢的な条件は明らかであり、今、同居している三男も10年先には41才になっているので結婚して独立して欲しいのも事実です。彼が独立すると一人暮らしになり、いろんな事を自分で解決する必要があるが、昨年、半年間、一人暮らしの経験が出来るので不安な要素はないものの「寂しさ」という点が大きな課題になります。この対策として地域活動にも顔を出すようにして交流の幅を広げています。この地域に溶け込む事が、今、私が磨くべきセカンド・キャリアだと思っています。

また、80才近くになると、男子の場合、平均寿命に近いので多くの方々が亡くなって行く訳です。この友人たちが亡くなっていくという寂しさもある訳で、若い層との交流を真剣に増やして行く事が急務になります。私のような団塊世代の人たちは世代間ギャップが大きいと言われていたので柔軟な思考回路を持ち続ける必要があります。新しい物に取り組むには、例えば、スマホでLINEなどをするには孫とのコミュニケーションに使う事で必然的になります。高齢者になると、このように、何かするにも「仕掛け」が必要になり、その「仕掛け」がうまく機能すれば楽しいとなるのです。こんな風に「仕掛け」を考えながら10年先を見据えて行きたいと思っています。